

さいたま市総合振興計画審議会 第1部会（第2回） 会議録

日時	令和元年7月4日（木） 午後2時00分～4時00分
場所	エコ計画浦和ビル 3階西会議室
出席者 （敬称略）	〔委員〕計10名 内田奈芳美／岡本祐輝／齋藤友之／作山康／佐藤徹／長野基／ 子吉亮／平林紀子／松山麻衣／宮本恭嗣 〔事務局〕さいたま市 都市経営戦略部：田中副参事／前主幹／新井主査／松本主査／ 大塚主任／篠田主事 〔傍聴者〕計2名
欠席者	〔委員〕計2名 柏木恵／永沢映
議題	1 開会 2 定足数の報告 3 議題 （1）第1回第1部会の主な意見について （2）将来都市構造の基本的な考え方について （3）重点戦略について （4）その他 4 閉会
公開又は 非公開の別	公開
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 席次 ・ 資料1：さいたま市総合計画審議会第1部会 第1回の主な意見について ・ 資料2－1：次期総合振興計画における将来都市構造関係の変更の考え方について ・ 資料2－2：将来都市構造の基本的な考え方（案）【概要】 ・ 資料2－3：総合振興計画審議会第1部会第2回参考資料 ・ 資料2－4：現行将来都市構造 ・ 資料3－1：次期総合振興計画 重点戦略の基本的な考え方 ・ 資料3－2：重点戦略のテーマイメージ
問い合わせ先	都市戦略本部 都市経営戦略部 電話 048-829-1035

1 開会

2 定足数の報告

○**司会** ただ今からさいたま市総合振興計画審議会第2回第1部会を開催いたします。それでは定足数の確認を行います。

さいたま市総合振興計画審議会運営要綱第5条第2項により、本部会の定足数は過半数と定められておりますが、本部会の出席委員は、委員総数12名に対し10名となっており、定足数を満たしていることから、本日の部会が成立していることをご報告いたします。

○**司会** ここで部会に先立ちまして今回初めてご出席いただきます委員の方がいらっしゃいますので、ご紹介させていただきます。お手元に配布してございます「さいたま市総合計画審議会第1部会委員名簿」をご覧ください。名簿順にお名前をお呼びいたしますので、その場でご起立のうえ、自己紹介をお願いしたいと思います。なお、所属、職等につきましては、名簿を配布させていただいておりますので、省略させていただきます。

(部会委員名簿順に委員紹介)

なお、現在のところ、傍聴希望者は2名となっております。

また、本部会につきましては、会議録を作成するための録音、記録のための写真撮影を行わせていただきます。会議録につきましては、各委員にご確認いただいた後、部会長の承認を以って確定いたします。公開となる会議の会議録は、各区情報公開コーナーと市のホームページで公表する予定となっておりますので、あらかじめご承知ください。

それでは、以降、部会長に議事進行をお願いいたします。

○**部会長** それでは、議事進行を務めさせていただきます。はじめに、会議を公開とし、傍聴を許可したいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

○**部会長** ご異議がないようですので、本日の会議は公開したいと思います。

○**部会長** これより議題に入らせていただきます。議題1「第1回第1部会の主な意見について」事務局から説明をお願いします。

(1) 第1回第1部会の主な意見について

(資料1に基づき、第1部会の主な意見「成果指標設定の考え方」「重点戦略の基本的な考え方」について事務局から説明)

○**部会長** ただいまの説明につきまして、ご意見やご質問等がございますか。

(意見・質問なし)

(2) 将来都市像の基本的な考え方について

(資料2に基づき、「将来都市構造の基本的な考え方」「拠点等におけるまちづくり」について事務局より説明)

○**部会長** ただいまの説明につきまして、ご意見やご質問等がございますか。

○**内田委員** エリアマネジメントの記述(資料2-1の2)は、大体網羅していると思います。エリアマネジメントは、維持だけではなく価値を高める意味で推進されていると考えています。

また、エリアマネジメントの継続・推進体制に関して、大宮駅周辺の開発が進んでいくことを考えると、「参画」よりも「分担」という表現の方がよいのではないのでしょうか。記載することでは無いかもしれませんが、実験を許す街であることもエリアマネジメントにとっては必要だと思います。実験を許すための規制緩和を積極的に考えていく必要があると思います。

○**宮本委員** さいたま市は都市計画マスタープランの中で、都市マネジメント(エリアマネジメントと都市施設マネジメントの組み合わせ)を謳っているのですが、その概念を記述した方がよいのではないのでしょうか。内田委員がおっしゃる通り、実験を許す余地は必要だと思います。実験する場所は都市施設(道路、公園など)なので、エリアマネジメントと関連付けて記述した方がよいと思います。

エリアマネジメントの継続・推進体制の中で、全国で課題になっているのは、財源の問題です。自主的な財源をどう確保していくのか、都市施設マネジメントが財源確保の

一番のタネであり、そのような財源問題に触れていただけると、より具体化につながっていくのではないかと思います。

○作山委員 さいたま市型 BID を検討するなど、表現として攻めてみてもよいかもしれませんが、「分担」は難しいので、「参画」「協働」が表現として適しているのではないのでしょうか。地域が成熟したところ（岩槻地区など）からエリアマネジメントに取り組むなど、地域ごとの方向性を示すことが大切だと思います。エリアマネジメントの一般論だけではなく、各地区が目指す方向と関連付けて記載するとよいのではないのでしょうか。

○岡本委員 さいたま市は昼間人口について国勢調査ベースで区ごとの整理をしていますが、町丁目別の推計をしていないのが気になります。昼夜間人口の差が大きい東京都や大阪市等では町丁目別の昼間人口推計がされています。岩槻地区は昼夜間人口の差がさほどないとも聞きますが、一方でさいたま新都心駅周辺はワーカーが多く、美園地区は鉄道を利用して都内に働きに出る人が多そうだ等、都心・副都心でも昼夜間人口に違いがありそうです。産業集積拠点や地域生活拠点など、細かい範囲で見た場合にはもっと違うかもしれません。今後、各拠点の性格付けをまとめていく中で、町丁目別の昼夜間人口比を考慮してみてもよいのではないのでしょうか。

○部会長 その意見を将来都市構造にどう落とし込むか、もう少し具体的な提案が必要だと思います。

資料 2-2 の将来都市構造の基本的な考え方を読むと、枠内の「水と緑に囲まれたコンパクト+ネットワーク型の都市構造」をいかに図化し、表現していくかが重要だと感じます。「上質な生活」「質の高い市民生活」を図化するのには難しいですが、右図（資料 2-2）に「水と緑に囲まれたコンパクト+ネットワーク型の都市構造」が表現されている、という事が最低限必要でしょう。

また、右図（資料 2-2）の表現の中で、4つの副都心の大きさの違いや、大宮が結節点からずれていることなどに意味はあるのでしょうか。基本は都心を中心にして、ネットワークである副都心を配置して表現しなくてはいけないでしょう。単純な形で水と緑のシンボル軸を表現しているが、異なる表現の方がよいと思います。見沼田圃は図の外まで突き抜けた方がよいでしょう。そのような（緑の軸や東西連携軸、南北都市軸に）囲まれている大宮であり、安心・安全であるということが大事だと思います。

例えば、コペンハーゲン「ハイパー都市」というのを謳っており、元気が出そうな言葉がよいと思います。前回の審議会が出た「上質な」、英語だと「Superior」程度のニュアンスがよいのではないのでしょうか。

今の図は色が多くて判別しにくい印象を受けたので、無彩色で濃淡だけの表現でもよいと思います。図の情報が多いため将来都市構造を表現する方法に工夫が必要だと思います。

ます。

○内田委員 資料2-2の「3. 将来都市構造を構成する要素 (1) 拠点 ①都心」で東日本の対流拠点とありますが、対流拠点は主に大宮だと考えられるので、大宮との対比で浦和ならではの魅力を示す必要があります。

資料2-2 (図の中で)「⑤ 産業集積拠点」は、水と緑のネットワークの骨格に侵食しないことが大事ではないでしょうか。水と緑のネットワークの骨格を守りつつ、成長も担保していく形で言葉や図で表現できた方がよいと思います。

○長野委員 都市の構造をどう作るかを考えるときには、他の都市と競い合うかを考える必要があると思います。東京の周辺都市(多摩地域、千葉市、横浜市など)は、10年、20年かけて交通網の整備を謳っています。それらの都市とどう競うのかわかりません。原案を作る際に、どのようにビジョンを組み立てたか、東京を中心とした中央道周辺の拠点エリアとどう競うのか、事務局に確認したいです。

また、「東日本の中枢」と書かれていますが、今後リニア開業により3大都市がつながります。メガリージョンにおける、さいたま市の位置づけを確認できればと思います。品川や横浜に経済発達拠点が移ろうとする中で、業務核都市の特徴をどう活かすか確認したいです。

○事務局 本市は東京都を中心とした環状線における、東西連携の意識はございました。しかし、競争相手としては意識しておりませんでした。

○部会長 今の長野委員のお話は、将来都市構造だけの話ではなく、前段の話の内容が将来都市構造に影響してくるという話だと思います。私もよく思うのは、なぜ横浜ではなく、さいたま市を選ぶのか、ということです。差別化をどうするのかを考える必要があります。埼玉県は730万人おり、これはヨーロッパでは一つの国に匹敵し、さいたま市は首都のようなものです。いつまでも東京に頼らない「自立都市」の発想から考えるなど、将来都市構造の前提となる議論が大切なのではないのでしょうか。

○内田委員 業務核都市の中で、さいたま市もしくは、大宮は「絹の道」がある北関東地域を背後に持つことが大きな強みだと思います。産業の繋がりは昔からありました。それは千葉にも横浜にもない話です。品川は西側の入り口ですが、さいたま市は北関東地域の入り口だと思います。

○部会長 北関東を主眼に置くというのは大切でしょう。

○**長野委員** 「産業集積拠点」(資料2-2)を追加し、既存の製造業を維持しつつイノベーションするというのは重要です。しかし、二次産業だけではないさいたま市において、工業団地を前面に出すのがさいたま市の特性に合っているのかわかりません。

○**部会長** さいたま市は東京に近接しているのでクリエイティブ産業の創出を謳ってもよいのではないのでしょうか。従来型の産業集積と同時に、都市型のクリエイティブな産業の創出も視野に入れる方がよいと思います。その際に都心型のネットワークと連携していく必要があります。

○**松山委員** オフィスが都内にあって週の半分は在宅で働いています。多様な働き方になっていく中で、都心のオフィスに通わずとも市内で働けるようなワーキングスペースを増やしてほしいです。例えば、浦和駅周辺には電源カフェがある等の情報をもっと拾いやすくなるなど、産業集積拠点の中にソフトサービスの要素も表現として入れると素敵だと思います。「さいたま市いいね」と呼べるものがあると市民として嬉しいです。

○**宮本委員** ポジショニングの問題がとても大事です。さいたま市は「東京大都市圏」や「東日本圏」の中でどういうポジショニングをとっていくのか、まだ見えていません。対流拠点についてももう少し説明が必要だと思います。図(資料2-2)への表現はとても難しいと思いますが、レイヤー分けをして東日本や東京大都市圏、北関東に位置するさいたま市が描かれるなど、表現の工夫が必要でしょう。

さいたま市と同じような政令市(横浜、仙台、神戸)では、クリエイティブシティを目指しています。産業構造の変化に対応し政令市がクリエイティブ産業を誘致する方向にシフトしていく中で、さいたま市は従来型の二次産業をメインでいくのか、について議論が必要です。

また、地域活動拠点が区役所周辺に位置づけられており、違和感を覚えました。電子化が進み、市民が利用する市役所機能が縮小していくと思われるので、市民が行きやすい図書館、公民館、コミュニティ・センターなどが活動拠点に適しているのではないのでしょうか。

○**部会長** 基本的には、この部会で原案をすべて修正するのは難しいと思うので、修正を適宜行っていきます。最後、基本的な議論を見返した中で、場合によっては、組みかえを行う、そのような進め方をしていただけるとよいと思います。都市戦略や魅力付けの議論に戻った時に追加・修正するとよいでしょう。

○**宮本委員** 国交省にウォークアブルシティ(歩きたくなるまち)の報告書があります。「将来都市構造 2 目指す方向性」(資料2-2)の中に、「徒歩、自転車又は公共交通

機関で移動できる範囲において享受できる環境を創出」と書かれているが、ウォークブルシティが世界的な潮流となっている中で、大宮や浦和など公共交通機関が充実しているところにウォークブルシティの方向性を打ち出してもよいのではないのでしょうか。

(3) 重点戦略について

(資料3に基づき、「重点戦略の基本的な考え方」「重点戦略のテーマイメージ」について事務局より説明)

○**部会長** ただいまの説明につきまして、ご意見やご質問等がございますか。

○**内田委員** 資料3-2の課題2で「働いて住む」視点を入れて、働き方の変化に対応できる環境の準備が大切だと思います。通勤せずにさいたま市に住み、働く視点が大切だと思います。資料3-2の課題1で、子育て世代になると大宮から出ていくという問題がございますが、それは心理的かつ物理的な居場所(広場、たまり場など)の不足が原因として考えられます。特に大宮駅周辺は人が対流する場所がなく、物理的な居場所がございません。それが心理的な居場所の不足につながると思います。そのような場所が不足しているので考えなければいけません。

また、観光資源をアピールすることも大切です。インバウンドで北関東を巡るような観光客に大宮・浦和をアピールすることが必要です。見沼田圃もアピールしないと貴重な資源だと気付いてもらえないです。大宮やさいたま新都心から近いと周知することが大切なので、計画の中に入れてほしいです。

○**部会長** 重点戦略1は強みを活かす魅力づくりで、重点戦略2は政策・課題型(受け身型)に思えます。力の入れ具合で重点戦略という表現の仕方もありますが、重点戦略1は魅力づくり、さいたま市の特徴的な上質な生活都市として、「働いて住む」「いろいろな住まい方ができる」など横断的な戦略もあるのかもしれませんが。例えば、韓国の済州島では「歩いて楽しい仕掛け」を作っています。それは重点戦略の健康につながるのではないのでしょうか。教育や環境にもつながってくるかもしれません。現状は、従来の戦略を整理したようにしかみえません。このため、前段の議論を大事にして、その中で何を言っていくかが大事だと思います。

○**岡本委員** 先ほどのウォークブルシティの話とも通ずる部分はありますが、近年、内閣府でも「超スマート社会」「Society5.0」を謳う中で、「スマート化」に向けた取組は、もはや環境分野だけに留まる話ではなくなってきました。あらゆる分野でデータをうまく活用してより効率性や生産性等を高める方向へ「スマートシティ」に関する議論が

シフトしています。関連する記述は健康の分野に見られるものの、あえて環境の分野のみ「スマートシティ」の語を載せているのはなぜでしょうか。

○事務局 「スマートシティ」という言葉は幅広く、多岐にわたる横断的な部分と認識しております。ここでは環境の分野を中心に、そこから拡げていくという意味で記載しております。

○部会長 まだあまり議論されていないので、環境分野を中心に先ほどのクリエイティブ産業や観光アピールと連携していけば、より拡大していくのではないのでしょうか。

○長野委員 さいたま市がこれからやろうとしていることで「電力の地産地消」（資料3-2 課題4）を掲げているのは驚きました。戦前にあった村営の電力会社や現在のドイツの都市型電力会社では、生産した電力をお金に替え、そのお金で公共交通機関の費用を補填していました。これは経済循環を作るための話だと理解しています。さいたま市はなぜ、電力の地産地消に取り組もうと思ったのでしょうか。

また、政令指定都市として税金をどこで得るかが重要です。普通の住宅地型市町村だと住民税や固定資産税をメインにしますが、政令指定都市は違います。さいたま市として税金をどう確保するのでしょうか。原案を作る際に、どこでお金を確保するのか議論があったか確認してほしいです。

○部会長 ただいまのご意見のような税金の視点での議論はありましたか。

○事務局 具体的な話ではございませんが、二つの重点戦略を決める際にベースとなるプランがございました。その中で、さいたま市に人をどのように呼び込むか議論し、企業の法人税や定住者の住民税で、税金を確保すると考えておりました。その議論を加味した上で、今回のプランを決定しました。

○佐藤委員 現行の総合振興計画でも重点戦略がありますが、うまくいっていないなら見直しをする必要があります。次期総合振興計画の根幹の部分を議論するべきだと思います。重点戦略はかなり網羅的なので、本体の施策とあまり変わらない印象を受けました。重点化する際には選択と集中が必要でしょう。

また、重点戦略作成後は、施策をグリップして推進していく司令塔が必要です。ガバナンスを行うのは、都市経営戦略部にならざるを得ないと思うので、都市経営の観点で、計画と予算をリンケージしていく必要があります。限られた資源の中で、資源配分をして振り分けていくためには財政当局と調整が必要です。

さらに、将来都市構造の中で「産業集積拠点」と「エリアマネジメント」の話がござ

いましたが、重点戦略との関連が見えていないので、調整の必要があると思います。

○平林委員 重点戦略を見ると、総合的で要素が多くてイメージが湧かないので、優先順位を定めるのか、あるいはストーリーを創る必要があるのではないのでしょうか。例えば、人を誘引する中で、自分がどのストーリーに組み込まれていくのか説明することが大切です。それがビジュアルライズされると人に伝わると思います。

資料3-2に記載されていることは、どれも大切に優先順位をつけにくいと思います。あるタイムスパンでみるとそれが浮き彫りになってきます。例えば、ニューヨークでは資料3-2でいう課題2、課題5から優先的に取り組み、現在は魅力となっています。その後、課題3、課題4に取り組んでいます。すでにある魅力を発信しつつ、弱点の一つずつ取り組む等の姿勢が必要です。今取り組むこと、長期で取り組むことを分けて考えるのが戦略になるので、5年前に比べてどのように変化し、どこにフォーカスするかが重要だと思います。

○部会長 民間では、所得に着目して小金持ち層を戦略的に狙うなど、取組を議論しています。計画に反映しなくとも、都市経営戦略の議論を共有した上で、重点戦略や将来都市構造を考えるべきだと思います。

○平林委員 アッパーミドルが重点戦略のターゲットとするならば、アピールする部分を強調しないと戦略にはならないと思います。

○宮本委員 資料を見ると縦割りの仕組みには限界がきていると感じます。あらゆるものを分野横断的に取り組まなければならない社会ですが、現状の書き方は前時代的です。そのギャップをどう埋めるかが難しいところでもあります。例えば、健康と教育が強みとされているが、今後、弱みになる可能性もあります。健康は、若い人が多いから健康であるとも考えられます。ライフスタイルそのものが健康になることが大事です。教育についても、子どもだけではなく再チャレンジできる社会をつくるには、リカレント教育・生涯教育などの視点を入れることが大事でしょう。教育は働き方にも結び付くので、横断的に取り組む必要があるのではないのでしょうか。

○子吉委員 いただいた資料を一つずつ見ると理解できるが、全体の流れが分かりづらかったです。どこからスタートして、どこが将来都市像に結び付くか分かりづらいです。重点戦略のテーマイメージに関しては、伸ばしたい強みと重点ポイントの繋がりなどが個人的につながらないので、記載内容をもっと精査された方がよいと思います。

○部会長 今回の重点戦略はあくまで列挙したものなので、ストーリーを議論すること

が大切です。今日の議論を踏まえて、重点戦略をもっと横断的に考えていく必要があります。個人的には、「郊外の魅力」「自然との調和」「デュアルライフ」を意識した魅力を市民が理解しやすく、市民と一緒に「協働」で進められる施策に落としただけければと思います。

(4) その他

○事務局 いただいたご意見等を部会長、副部長、事務局で整理し、必要な修正を行ってまいります。次回、第3回の第1部会で報告させていただきます。第3回の部会でございますが、7月下旬～8月上旬の開催を予定しております。今後、委員の皆様にご日程調整のご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○部会長 以上をもちまして、本日の議事を終了させていただきたいと思います。委員の皆様のご協力により、円滑な議事進行ができましたことにお礼申し上げます。

4 閉会

以上